

パナマ内政・外交(2018年8月定期報告)

【ポイント】

- 1日付でエチレク住宅大臣、15日付でパレデス教育大臣が辞任した。
- 2019年総選挙に向けたCD党大統領候補に、ルークス同党総裁が選出された。
- バレーラ大統領は、コロンビアを訪問。ドゥケ新大統領と首脳会談を行った。

【本文】

●内政

1. 閣僚の辞任

- (1) 1日付でエチレク住宅大臣は大臣職を辞任した。なお、与党パナメニスタ党内における大統領選挙予備選挙に立候補する予定であることを認めた。後任には、シャンスール住宅次官が大臣代行となった。
- (2) 15日付でパレデス教育大臣は大臣職を辞任し、ピンソン次官が同大臣代行として就任した。パレデス氏は、駐チリ・パナマ大使に就任する。

2. 民主変革(CD)党内予備選挙

12日、CD党は2019年大統領選挙に向け、党内統一候補者選出のための予備選挙を行った結果、ルークス同党総裁が得票率約69%(約6万5000票)を獲得し、同党大統領候補に選出された。対抗馬として有力視されていたムリーノ元治安大臣は、得票率約29%(約3万票)であった。

●外交

1. バレーラ大統領のコロンビア訪問

- (1) 8日、大統領はコロンビア大統領就任式に出席した際に、ドゥケ新大統領と会談を行った。サイン・マロ副大統領兼外務大臣も同席した。
- (2) 両首脳は、南部三角地帯(パナマ、コスタリカ及びコロンビア)での麻薬密輸の取締り、二国間の貿易問題の解決及び観光等の、パナマ・コロンビア間での共通関心テーマについて協議した。
- (3) 特に、財政・貿易面において両国間で未解決である関税問題の解決の必要性を強調した。同問題に関しては、近日中に両国の外務省の間で、貿易財政担当者による協議を調整することとなった。

2. ナバロ外務次官による韓国訪問

- (1) 8日～11日、ナバロ外務次官は韓国を訪問し、政府関係機関との会合及び韓国企業との意見交換を行った。

(2) 韓国国際協力機構(KOICA)との間では、パナマ政府による国際協力プログラム「パナマ・コオペラ(Panama Coopera)」及び地域人道支援センターにより特徴付けられたパナマのグッドプラクティスを共有した。

(3) 釜山港湾局高官等との間では、貿易、海事及び教育分野のテーマにつき意見交換を行った。外務次官は、パナマ運河第三閘門が、メキシコ湾岸から韓国及び日本の北東アジアへ向けた液化天然ガスの輸送ルートであり、両国の海事サービスは相互補完されている旨強調した。

(4) その他ヒュン外交部第二次官、ポスコ大宇社長と会合を行い、韓国貿易協会(KITA)主催ビジネスフォーラムに出席した。

3. 李小鵬・中国交通運輸部長のパナマ訪問

(1) 10日、バレーラ大統領は、パナマを訪問中の李小鵬(Li Xiaopeng)中国交通運輸部長と会談を行った。

(2) 同会談において、両者は、パナマ・中国間のインフラ及び海洋交通分野での協力を強化するためのロードマップ策定を行った。

3. ポルトガル外務大臣のパナマ訪問

(1) 8日～10日にかけて、シルバ・ポルトガル外務大臣がパナマを訪問し、バレーラ大統領への表敬と共に、サイン・マロ副大統領兼外務大臣と外相会談を行った。

(2) 両外相は、港湾協力、観光分野及び投資の促進に加え、財政分野における双方での差別的リストからの除外プロセスに関し協議した。

4. 核兵器禁止条約に係る法案の議会提出

29日、ナバロ外務大臣代行は、当国議会に核兵器禁止条約批准に係る法案を含む8法案を提出した。本条約批准によって、パナマ政府は平和及び対話重視の姿勢を再認識すると共に、国際社会へ世界平和及び核不拡散を支持するパナマの立場を表明する。

(了)